

ChiKaRa

Vol. 19

すずかけセントラル病院 広報誌

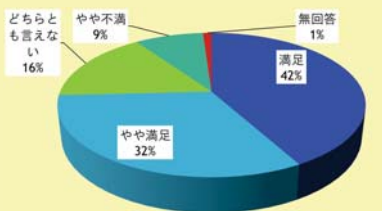
特集 臨床工学技士



CONTENTS 病院実績（入院・外来 来院数）
 高齢化時代における薬剤師の役割
 お知らせ・イベント情報

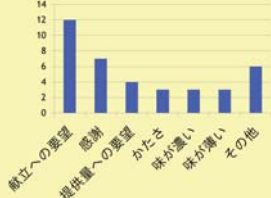
表紙の人 すずかけセントラル病院 臨床工学技士 岡 匡之

調理方法や、食材の選択などを検討していますが、安全な食事を提供するためには、食品の衛生管理が最優先になります。菌の増殖を防ぐためには、加熱することが最も有効な調理方法とされています。当院のサラダメニューの多くは、ブロッコリーやアスパラ、キャベツ、トマトなど、加熱してもおいしい野菜を使い、味付けの工夫をしています。



「満足」が42%と最も多く、次いで「やや満足」が32%であった。約7割以上の方が食事に満足しているという結果となった。

満足いただけている方が74%を占め、この評価を糧に、今度以上に安全でおいしい食事づくりに努力いたします。今回の喫食調査では、献立への要望を多くいただきました。特に、生野菜の歯ごたえに関するご意見が多かったです。



喫食調査結果

入院患者さんを対象に、食事に対する喫食調査を実施致しました。93名の方にご回答いただきました。

INFORMATION

防災訓練



平成29年5月10日(水)に、東南海沖地震発生・津波警報発令を想定した防災訓練を実施しました。

津波避難ビルでもある当院では、多くの職員が積極的に防災訓練に参加しています。



各部署、アクションカードを使用した初動訓練・状況報告訓練、津波警報発令に伴い2階への避難誘導訓練を実施。屋外では消火散水栓・消火器(水消火器)を使用した消火活動訓練を実施。また、今回はエレベーター故障時の救助訓練も行いました。

ブランドゴルフ大会



平成29年6月2日(金)に、第四回すずかけセントラル病院杯争奪瓜内スポーツブランドゴルフ大会が開催されました。参加メンバーは瓜内ブランドゴルフ同好会の皆さん。開催予定日の5月26日(金)は雨天順延でしたが、当日は晴天に恵まれました。

野中事務部長の始球式で大会はスタート。皆さんの若さ溢れるプレーが目立ちました。

今後、地域の皆さんの健康増進活動に少しでも寄与できるように大会を継続し、地域に密着した病院を目指します。

中学生職場体験

6月7日(水)～9日(金)浜松市立江南中学校2年生2名の学生が職場体験に訪れました。院内で働く様々な職種の役割・業務内容の説明を、興味深く聞いていました。ブラックライトによる手洗いやチェックを実施し、普段の手洗いや消毒の手洗い方法でも驚いていました。病棟体験では、患者さんと話し取り組んでも頂き、真剣に学習を通して、感じたことを将来の進路に結び付けていただければ幸いです。



高校生1日ナース体験事業

本事業は静岡県看護協会が、静岡県健康福祉部地域医療課医療人材室の委託を受けて実施しています。将来、看護師を目指す学生や、看護の道に進むか迷っている学生を対象に、病院での看護実務体験ができます。

当院も平成25年から実施しており、今年は、12名の高校生の申し込みがあり、8月15日(火)に実務体験が予定されています。



編集後記

『食事をおいしく、バランスよく』という食生活改善普及運動(平成29年9月1日～30日)が厚生労働省から発表されています。

「毎日野菜をプラス1皿」「おいしく減塩1日マイナス2g」「毎日のくらしにミルキミルク」。暑い夏を乗りきるためにも、食生活に注意して健康なからだづくりが心がけましょう。



浜松市南区田尻町120-1
 TEL : 053-443-0111 FAX : 053-443-0112
 http://www.suzukake.or.jp
 発行 すずかけセントラル病院 広報委員会
 発行日 平成29年7月24日



『臨床工学技士』とは

はじめに みなさん、こんにちは。臨床工学技士の岡です。皆さんは、『臨床工学技士』という職業をご存じでしょうか？

臨床工学技士は、看護師や薬剤師などコメディカルスタッフの一職種であり、現在の医療に不可欠な医療機器のスペシャリストです。増大する医療機器の有効活用と安全確保の担い手として、チーム医療に貢献しています。

1987年に臨床工学技士法が制定され、臨床工学技士が国家資格として認められました。大学または3年制の臨床工学技士養成学校を卒業することにより、臨床工学技士国家試験の受験資格が得られ、国家試験に合格することで厚生労働省から免許が与えられます。現在は、約15000名の臨床工学技士が全国の病院で活躍しています。臨床工学技士は吾(Medical Engineer)やCE (Clinical Engineer)と呼ばれ、主な業務は、人工心臓装置、血液浄化装置、人工呼吸器、心臓ペースメーカーなどの生命維持管理装置の操作及び保守点検をすることです。臨床工学技士は、医療機器の進歩に伴い医学的・工学的な知識を持つ技術者が必要となったために制定された専門職です。当院では、現在6名の臨床工学技士が在籍しており、これらの業務の他、医療機器の取り扱いについてのスタッフへの勉強会を開催しています。

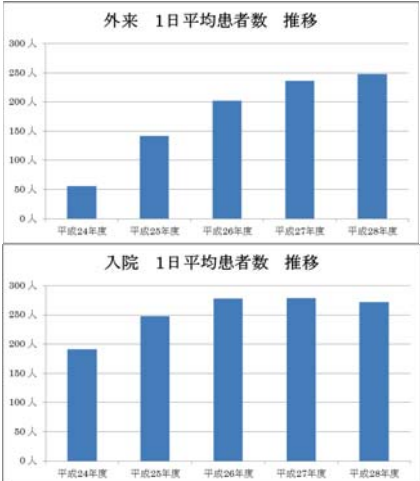


病院実績

当院は、急性期から回復期そして長期療養まで、それぞれの患者さんに合わせた医療を提供すべく、15診療科、309床のケアミックス型の病院として平成24年11月に開院し、5年目を迎えました。

現在では、地域のニーズに対応できるよう診療体制の充実を図り、診療科を21に増やしました。また、時代に即した医療体制を確保するため、地域包括ケア病棟と障害者病棟も取り入れ、5つの機能を持つ多機能型ケアミックス病院となりました。

これにより、周辺地域のみならず、県内外からも多くの患者様に来院していただけるようになり、外来・入院患者数とも開院以来増加傾向が続いています。今後も地域医療の要となる病院として、皆様にご信頼され安心してご利用していただけるよう努めてまいります。



血液浄化業務 腎臓の機能が低下すると、腎臓の働を代行するために、人工透析という治療を受けます。

当院ではベッド数10床を所有しており、入院透析を行っています。月曜日から土曜日まで現在30名ほどの患者さんに、医師、看護師と連携して治療を提供しています。

臨床工学技士は、人工透析装置や人工透析に使用される水処理システムなどの準備や操作、保守管理を行います。私達は、専門である機器管理だけでなく、患者さんが安心して透析が受けられるよう、できる限り近くに寄り添い、患者さんとのコミュニケーションを大事にしています。



医療機器管理業務 平成19年4月より、医療機器を安全に使用するため、厚生労働省より保守点検が義務づけられました。それに伴い、院内の医療機器も法律に従い、保守管理しています。

当科で管理している医療機器は、病棟・外来・手術室等で使用されるものが約1500台あります。日々、保守点検、修理、清潔処理、保管管理、貸出・返却業務を行い、安全で高性能な状態で効率的な運用を行っています。

人工呼吸器管理業務 肺の機能が働かなくなり、呼吸人には、呼吸を代行するための人工呼吸器という装置が装着されます。

人工呼吸器を装着している（急性期から慢性期の）患者さんには各種点検（使用前、使用中の日常点検、使用后）、設定の補助を行っています。



高齢化時代における薬剤師の役割

薬剤師の仕事、過去、現在、未来

約20年前より、医師による患者の診察及び薬の処方と、薬剤師による薬の調査や、薬の総合的な管理するための「医薬分業」が、積極的に推進されるようになりました。それに伴い、我々「病院の薬剤師」は、薬局の中だけで薬を調合することより脱却し、できるだけ患者さんに近いところで、薬に関わる仕事を行なうように、内容が変化してきました。具体的な例を上げると、患者さんによる処方された薬の説明はもとより、処方された薬による副作用、薬同士の相性、アレルギー等の確認や、検査結果等に基づき処方された薬がそれぞれの患者さんに十分な効果を発揮しているか、そして個々の患者さんに合っている薬かどうか判断する事も、「病院の薬剤師」の重要な仕事のひとつとなりました。



また、医薬分業の結果発展した「調剤薬局の薬剤師」は、「かかりつけ薬局の薬剤師」として各病院の外来で処方された薬を一元的に管理することになりました。

それと同時に、一部の医療機関や調剤薬局からの顧客サービスとして始まった「お薬手帳」を普及させることにより、「かかりつけ病院」や「かかりつけ薬局」でなくとも、病院の関係者が個々の患者さんの薬についての情報が簡単にわかるようになり、患者さんの薬に対する不利益が減少するよう努めてきました。「お薬手帳」を患者さんが持参することにより、災害時は、かかりつけ以外の病院や薬局でも、患者さんがどの薬を使用しているのかわかるようになり、「お薬手帳」は、無くてもならない物になりました。

入院生活を少しでも快適に過ごしていただくため、入浴のお手伝いもしています。安心で安全な入浴のために、患者さんと機器の状態確認を常に行い、入浴のサポートをしています。

手術補助業務 手術室で使用される医療機器は日々進歩を続け、より高度化・複雑化した機器へと変わってきています。そんな高度化する医療機器に対応するため、当院では臨床工学技士が手術室においても機器管理を行っています。

主な医療機器は、麻酔器・各種生体モニター関連装置・内視鏡装置・電気メスなど多数あります。手術が円滑に安全に進められるよう、私たち臨床工学技士が術前準備・操作・点検を行い、いかなるトラブルにも迅速に対応できるよう努めています。

心臓カテーテル検査補助業務 心臓カテーテル検査は、循環器医師を中心に、看護師、臨床工学技士などのコメディカルスタッフでチームを組んで行います。主に臨床工学技士は循環動態の監視や治療機器の準備を担当し、各種診断装置（IVUS・EBC）の操作を担当しています。

不整脈の疑いのある場合には、埋め込み型心電図や電気生理検査を行い、不整脈と診断された場合には、永久的ペースメーカーの植え込みやカテーテルアブレーション治療を行っています。臨床工学技士は、検査や治療の際に電気刺激装置の操作や心電図のモニタリングを行い、検査、治療以外では、ペースメーカー植え込み患者の定期チェックや、外科的手術前後のトータル等のチェックを行っています。



筆者
岡 匡之
(臨床工学科 主任)

当院においては、外来での薬剤処方院内で行っていますが、患者さんの薬剤情報は、「お薬手帳」で他の病院や調剤薬局と情報共有をしています。そのため、病院受診時には、「お薬手帳」の持参にご協力をお願いします。

ところで、日本国内における高齢化は急速に進み、20年後には3人に1人が65歳以上の時代がやって来ます。そのため、医療保険制度も現状のままではでは破綻してしまい、入院患者の受け入れは困難な状況になることは明白です。日本の医療は、大きな転換期を迎えようとしています。国の政策としては、自宅等を中心とした、療養、介護、及び在宅医療を推進しており、当院も含め多くの病院では、これらを見据えて病院機能が変化してきています。

それに伴い、「病院の薬剤師」の役割は、退院後も継続して正しく薬が服用出来るよう、医師へは、薬の種類や調剤方法の提案を行い、患者さんやご家族へは、退院後の生活状況にあわせて、薬についての説明をわかりやすい言葉で丁寧にするよう心がけています。今後の医療の変化に対応しながら、他の医療関係者と共に、一人一人の患者さんに適した薬が提供出来るように最善を尽くしていきたいと考えています。

